



会員紹介 エココミュニケーション研究会せんなん

活動内容

代表：秋本好則 0224-56-1809

会員数 20名

私たちは「住んでいる人が地域の文化、自然遺産を再発見することで、住民相互の理解が深まり、地域での暮らしにもうひとつの楽しさを加えること」というエココミュニケーション活動の理念でまちづくり活動をしている団体です。柴田町を中心に人と人のつながりの輪を作ろうとしています。

「しばた時空の旅」を開催

私たちは以前から奥州街道沿いの一里塚に着目して、各地域の方々と連携した調査活動を行ってきました。昨年は福島県境から岩沼市までの奥州街道と一里塚の調査結果を「奥州街道絵地図」としてまとめ出版しています。

今年はこの活動の延長として、平成19年度の(財)地域活性化センターの地域イベント助成事業に認定されて、11月18日にウォークラリー



写真：ウォークラリーへ出発！

ーと街道散策会を行いました。これは柴田町船岡がかつては原田甲斐の館のあった城下町だったということを確認するウォークラリーと奥州街道沿いにある歴史的な場所で説明を聞きながら歩いてもらう散策会でした。

当日は伊達騒動を描いた「縦の木は残った」の紙芝居を見て、柴田の歴史に触れてからのスタートでした。コースの所々に“関所”と称した休み場所を設け、江戸時代の姿(?)の町娘や町人姿の人を配して茶店や遊び場の演出も行いました。



写真：江戸時代の町娘？

感想

木枯らしの吹く寒い日でしたが、延べ180名の参加があり、奥州街道に親しんでいただけたと思います。仙台大学生の皆様にも手伝っていただき、当初考えていたより世代間の交流も進んだように聞いています。参加者へのアンケート調査では、紙芝居や用意した青竹水筒が人気で、次回開催への期待の声もたくさんありましたが、予想を超える参加者数のため、やむを得ず最初の計画を変更せざるを得なかったことが残念でした。

一方、プレイメントとして11月10日に実施した柴田町特産の「雨乞のゆず」を利用した「ゆず料理コンテスト」では、ミヤギTVに取り上げられるなど、ちょっとした話題提供になったと感じています。大賞は鳴海雪子さんの「ゆず大福」で、ゆずジャムを餡で包み、外側の白い餅にゆずの黄色い粒々を散らしたもので、なんと菓匠三全から季節限定の商品として発売されることとなり、意外な展開に企画した私達も驚いています。

応募方法

- 規定のレシピを履かずに応募不可
- 賞品 10名(各1名) 賞品 1名
- 応募期間 10月1日～10月31日
- 抽選 当日抽選(抽選結果は当日で受け付けます。)

特典

- 入賞作品 参加賞にも応募作品 プレゼント!

とき 11月10日(土)
午前10時～午後1時

ところ 船岡分館
調理室

ゆず料理コンテスト アイデア募集!

ウチクラリーしばた時空の旅!共催

主催 エココミュニケーション研究会せんなん